

食缶による給食提供に関するアンケート調査結果（概要）について（報告）

1 調査概要

令和4年1月に報告した「学校給食における選択制デリバリー方式の解消に向けた取組について」において掲げた取組として、令和4年度は夏休み明けから5校の中学校で食缶による給食提供を開始した。

食缶による給食提供開始後、一定期間が経過したことから、給食の評価や食育面における効果検証を行うとともに、今後の給食提供の充実に向けた検討材料とすることを目的として、食缶による給食提供に関するアンケート調査を実施した。

【対象】 食缶による給食提供を開始した5校*の生徒、保護者、学校長
 ※ 二葉中学校、大州中学校、宇品中学校、矢野中学校、大塚中学校
 【期間】 令和4年11月～12月上旬

2 回答状況

対象数	回答者数 (回答率)	内訳 (回答率)		
		生徒	保護者	校長
6,907人	4,543人 (65.8%)	2,719人 (78.8%)	1,819人 (52.7%)	5人 (100%)

※ 生徒は生徒用のタブレットを用いて、専用のフォームから回答

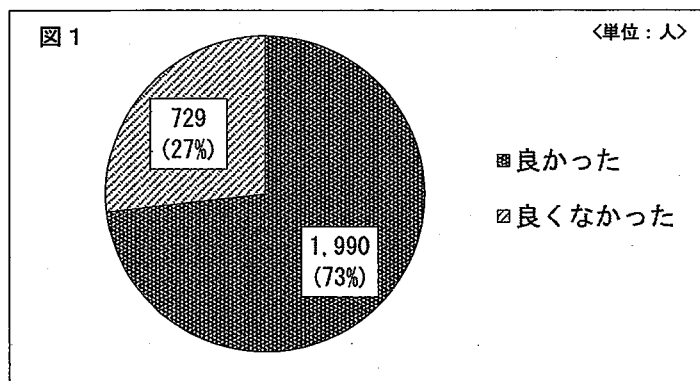
※ 保護者・学校長は配付したアンケート用紙にて回答

3 調査結果

(1) 生徒に対するアンケート結果

ア 提供方式が変わったことの評価（選択制）

提供方式が変わったことについて、73%の生徒が「良かった」と回答した。（図1）



良かった理由としては、「あたたかい給食が食べられるから」が最も多く、続いて「家庭で弁当を作ってもらわないから」「みんなで同じものを食べられるから」という結果であった。（図2）

良くなかった理由としては、「自分に合った味付けや量の弁当が持参できるから」が最も多く、続いて「選べる自由があったほうが良いと思うから」という結果であった。（図3）

図2 提供方式が変わって「良かった」と回答した理由（選択制）

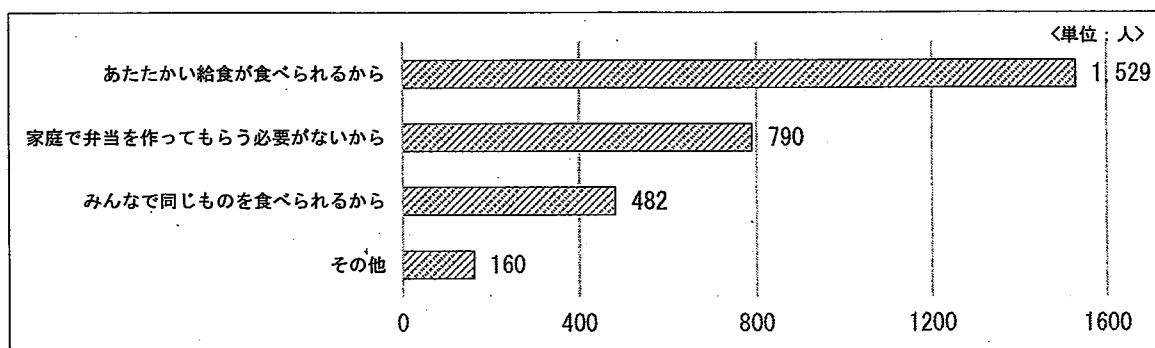
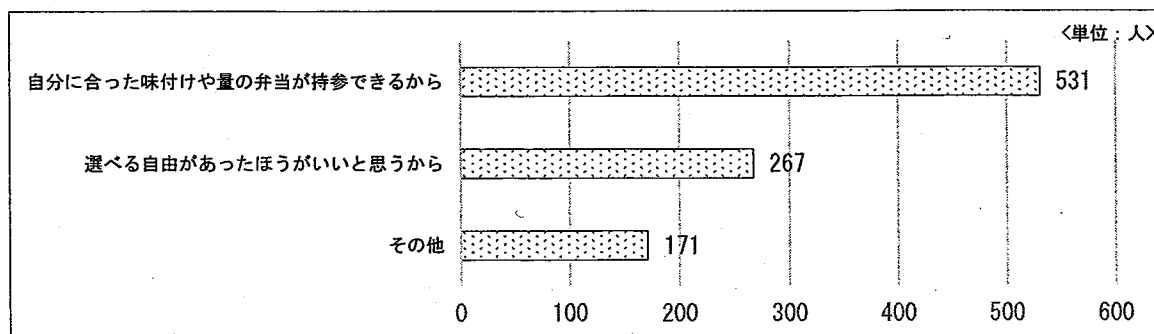


図3 提供方式が変わって「良くなかった」と回答した理由（選択制）



イ 給食の評価（選択制）

「味」、「温度」のいずれについても、平成30年度に実施した学校給食に関するアンケート調査※におけるデリバリー給食の評価と比較して、「良い」と回答した割合が大幅に増えて、50%以上となった。（図4・5）

※ 学校給食に関するアンケート調査
平成30年12月から平成31年1月に、中学校31校の2年生とその保護者、小学校63校の5年生とその保護者及びそれぞれの教職員（約2万人）を対象に実施した。

図4 <味>

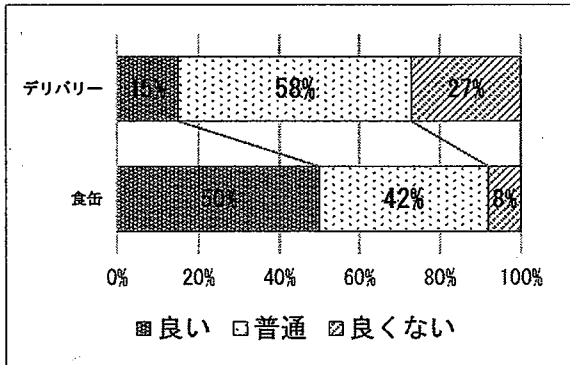
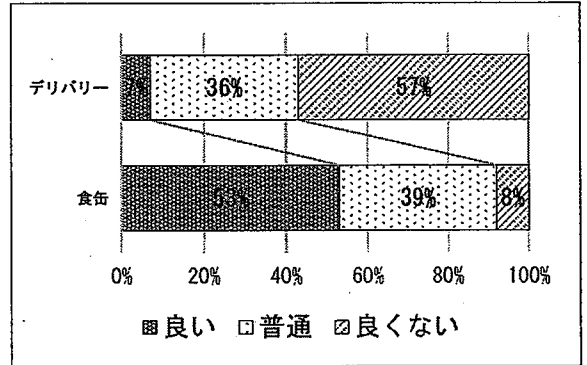


図5 <温度>

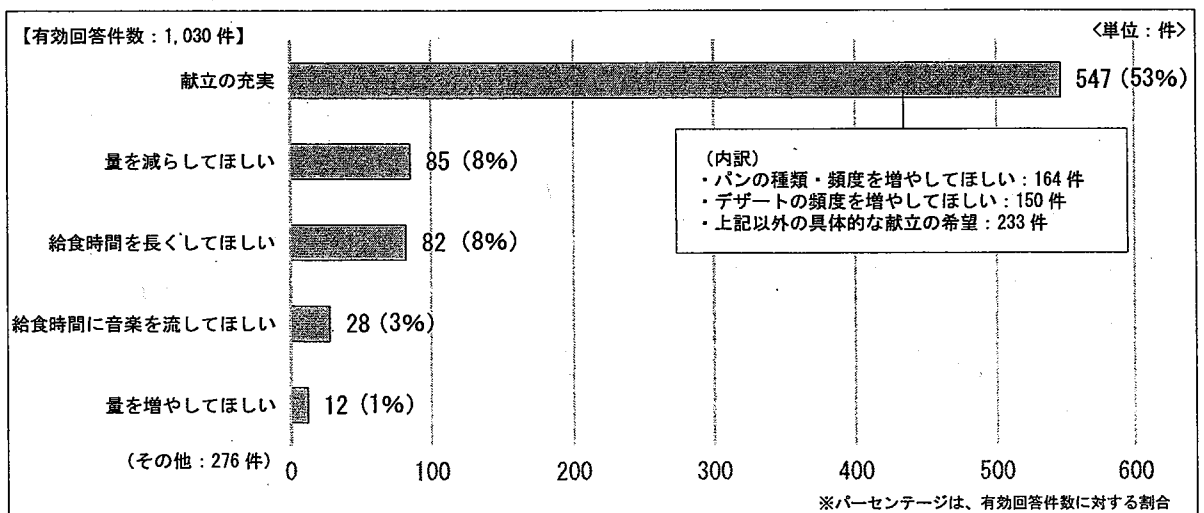


ウ 給食に希望すること（自由記述）

給食に希望することとして、献立の充実を希望する声があり、その内容は「デザート頻度を増やしてほしい」「パンの種類や頻度を増やしてほしい」といった意見が多くあった。

また、「量を減らしてほしい」「給食時間を長くしてほしい」などの意見があった。（図6）

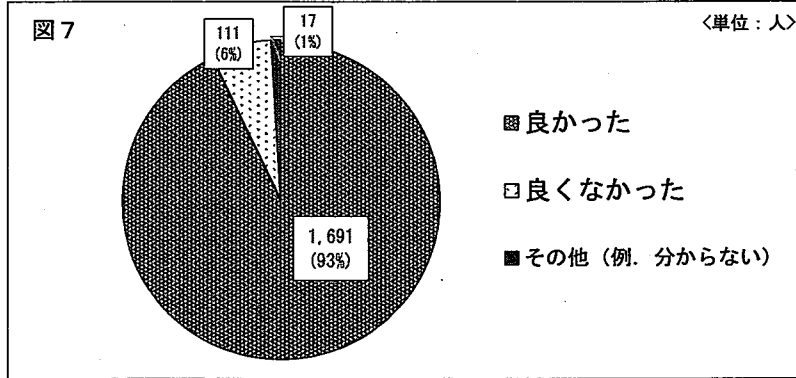
図6 給食に希望すること（自由記述）



(2) 保護者に対するアンケート結果

ア 提供方式が変わったことの評価（選択制）

提供方式が変わったことについて、93%の保護者が「良かった」と回答した。（図7）



良かった理由としては、「温かいものを食べられるようになったから」が最も多く、続いて「家庭で弁当を作るなどの負担が軽減されたから」であった。

また、その他として、「お弁当の夏場の食中毒の心配がなくなったから」「子どもの荷物が軽くなったから」などの回答もあった。（図8）

良くなかった理由としては、「選べる自由があったほうがいいから」という理由と「子どもに弁当を持たせたいから」という理由が多く、その他、「給食時間が短くなったから」「量が多い・少ない」などの回答もあった。（図9）

図8 提供方式が変わって「良かった」と回答した理由（選択制）

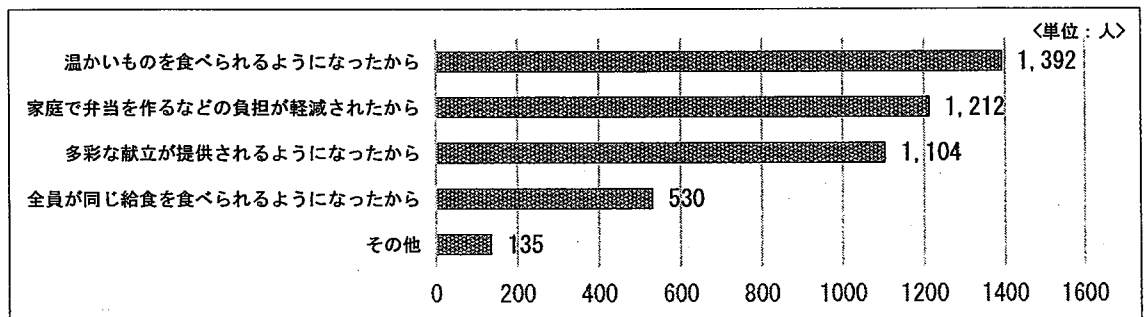
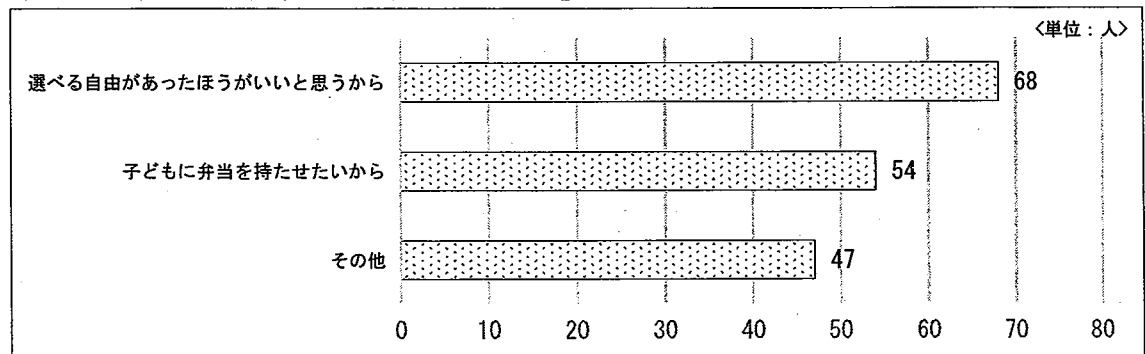


図9 提供方式が変わって「良くなかった」と回答した理由（選択制）

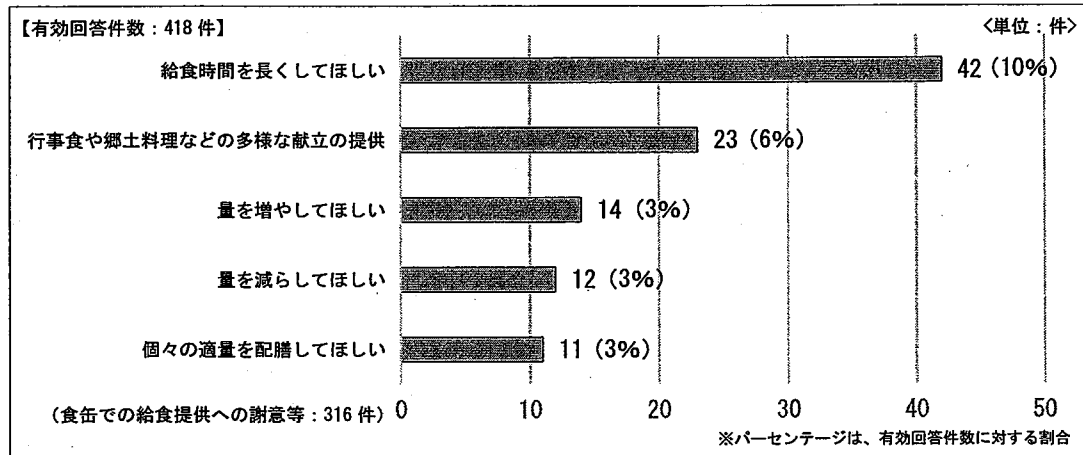


イ 給食に希望することや期待すること（自由記述）

給食に希望することや期待することとして、「給食時間を長くしてほしい」「行事食や郷土料理などの多様な献立を提供してほしい」という趣旨の意見が多くあった。

また、「量を増やしてほしい」「量を減らしてほしい」「個々の適量を配膳してほしい」といった給食の量に関する意見が一定程度あった。（図10）

図10 給食に希望することや期待すること（自由記述）



(3) 学校長に対するアンケート結果

生徒たちの様子の変化や給食指導に関すること、その他、今後食缶での給食に切り替わる学校へのアドバイスなどについて意見を求めたところ、次のような回答があった。

- ・ デリバリー給食に比べ、残食率が圧倒的に改善できた。
- ・ 「ふれあいひろば」で給食を食べる生徒も多くなり、登校のきっかけになることを期待している。
- ・ 「給食の準備や後片付け」、「食事のマナー」、「食べ物の栄養」などに関する指導がしやすくなった。
- ・ 配膳に時間を要するため、指導にかける時間を確保するための工夫が必要となる。
- ・ 小学校の栄養教諭による助言・協力により、給食の準備や後片付けなどの給食指導等を円滑に進めることができた。
- ・ アレルギー対応については、教職員の意識向上のほか、生徒・保護者との情報共有をしっかりと行うことが重要である。
- ・ 給食の提供方式の変更やアレルギー対応に係る生徒や保護者への説明に時間を要したため、余裕をもったスケジュールで準備を進める必要がある。

4 今後の対応

この度の調査結果から、食缶方式の給食の導入効果を確認することができた一方で、改善すべき点も確認された。これらについて以下のとおり対応していく。

(1) 食育の推進・献立の充実

生徒、保護者とも「良くなかった」という回答が一定程度あり、その理由としては、「自分に合った味付けや量の弁当が持参できる」、「選べる自由があったほうがいい」といった回答が多かった。

これらの意見に対しては、学校給食が成長期に必要な栄養素をバランスよく充足していることについて生徒・保護者の理解が深まるよう、学校における食育を推進するとともに保護者への啓発に取り組む。

また、生徒から献立の充実に関する希望が多く出されたことも踏まえ、行事食や郷土料理などの多様な献立を積極的に取り入れていくとともに、児童生徒が発案した献立を取り入れる機会を増やすなど、子ども達にとって魅力的でおいしい給食となるように献立の工夫に取り組む。

(2) 給食時間の確保

給食に希望することとして、保護者や生徒から「給食時間を長くしてほしい」という意見が一定数出されたが、給食時間を長くすれば、下校時刻や部活動の時間などに影響することから、今後、適切な給食時間の設定について各学校と協議を行っていく。

(3) 食缶方式の給食導入に係る適切な準備

学校長の意見を参考に、今後導入を進める38校については、食物アレルギー対応に係る保護者との調整など学校における準備が円滑に進められるよう、余裕をもったスケジュールで教育委員会の準備を進めていくとともに、学校での準備に当たっては、近隣の小学校の栄養教諭が適宜、必要なサポートを行うことができる体制を整える。